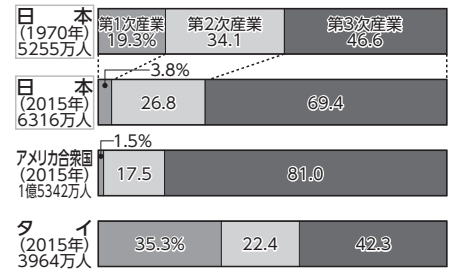


1. 産業の中心を担う第3次産業

- (1) 資料Ⅰから、日本の産業別人口の割合の変化の特色を説明してみよう。

(例) 第1次産業の割合が減少し、第3次産業の割合が増加している。

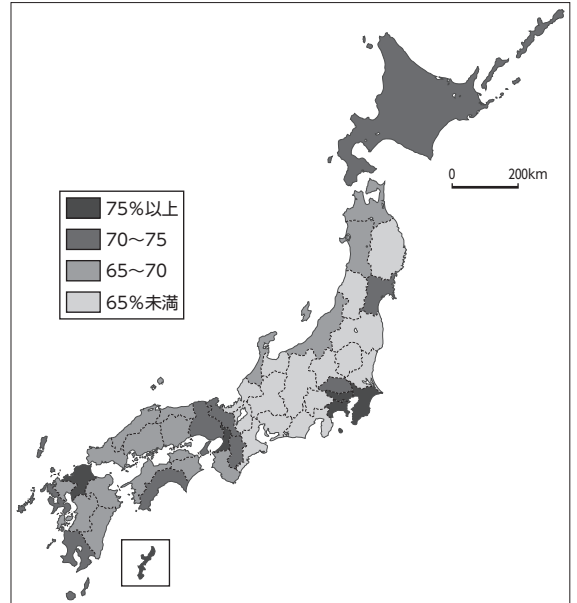
資料Ⅰ 主な国の産業別人口の割合



- (2) 資料Ⅱから第3次産業の割合が高い都道府県割合を挙げ、その都道府県で第3次産業の割合が高い理由を、資料Ⅲを参考にして説明してみよう。

(例) 北海道や沖縄県などは観光客が多いため、宿泊や飲食などのサービス業や商業の就業者が多く、東京都や大阪府、神奈川県、福岡県など人口の多い地域は、小売業や卸売業、医療、福祉などの就業者が多いため、第3次産業の割合が高くなっている。

資料Ⅱ 産業別人口に占める第3次産業の割合



2. 生活の変化と商業

資料Ⅳを見て、小売業の変化の特色を説明してみよう。

(例) 都市の中心部で営業してきたデパートの販売額が減少し、郊外に多い大型スーパーマーケットや、住宅地にあるコンビニエンスストアの販売額が伸びているほか、電子商取引が急激に伸びている。

資料Ⅲ 第3次産業の就業者の内訳

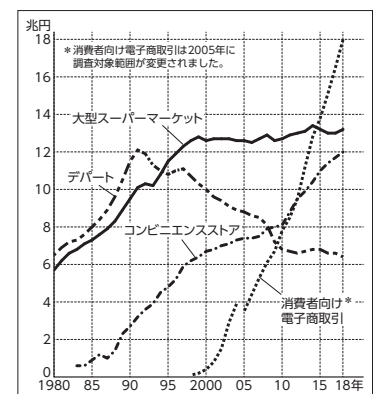


3. 成長するサービス業

インターネットを活用し商品やサービスなどを提供するメリットを、消費者側と企業側のそれぞれの立場から考えてみよう。

消費者側	企業側
(例) 離島や山間地に住む人や高齢者で買い物に行けなくても、いつでも利用でき、自宅まで配達してもらえる。	(例) 店舗が必要ないので起業しやすく、世界中の人を顧客にすることができる。

資料Ⅳ 小売店での販売額と電子商取引額の変化



本時のまとめ

◆ 商業とサービス業では、それぞれどのような分野や業種が拡大しているのか、説明しよう。

(例) 商業では、コンビニエンスストアのほか、テレビやインターネットを利用した通信販売が拡大し、サービス業では、情報通信技術（ICT）を活用したソフトウェアの開発や映像の制作などの情報や通信に関連する業種や、医療や福祉サービスを提供する業種などが拡大している。